

多様なファッションと東アフリカ伝統の布

在タンザニア日本国大使館

アフリカのファッションといえば、カラフルで派手な柄の布をイメージする方が多いのではないのでしょうか。タンザニアでも、そういった布を用いた服を着た人がいますが、Tシャツやスカートといったいわゆる欧米のファッションを楽しむ人もいます。また、人口の約4割がイスラム教徒ということもあり、肌を隠すためのスカーフのついた服を着ている女性や、コフィアと呼ばれる刺繍付きのムスリム帽をかぶり、カンズという長袖のワンピースのような服を着ている男性も街を歩いています。さらに、大使館の所在するダルエスサラームでは、インド系住民が多数おり、サリーやパンジャビスーツを着ている人も見かけます。

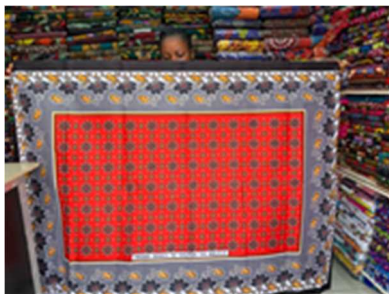
このように、多様なファッションスタイルの見られるタンザニアですが、今回は、カンガとキテンゲと呼ばれる、東アフリカ伝統の布をご紹介します。

カンガ

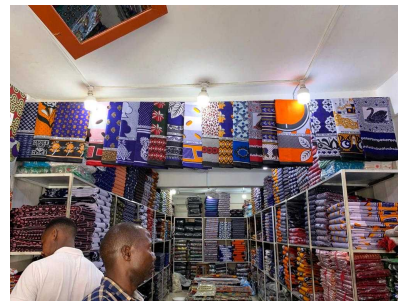
19世紀半ばに東アフリカの海岸地方で発祥したと言われており、体全体を覆う服として、あるいは、赤ちゃんのおんぶひもやバスタオル代わりなど様々な用途で使われています。この布の特徴は、スワヒリ語の格言やメッセージがプリントされているところで、例えばプレゼントする際には柄だけではなくプリントされている言葉の意味も踏まえて布を選びます。

キテンゲ

派手な模様がプリントされた綿製の布です。花柄、動物柄など様々な模様がありますが、最近のタンザニアでのトレンドは、幾何学模様のもので、街の市場で買ったキテンゲを仕立屋さんに持って行くと、自分の好みのシャツやワンピースを作ってもらうことができます。大使館職員も、お気に入りのキテンゲを見つけて仕立てた服でタンザニア文化を体験しています。



（「あなたの善行は永遠の財産となる」と書かれたカンガ）



（布を売る店内の様子）

【参考】 栗田・根本編『タンザニアを知るための60章（第2版）』